

# 今年度の糸賀一雄記念賞および糸賀一雄記念未来賞の受賞者が決定しました。

公益財団法人糸賀一雄記念財団では、故糸賀一雄氏の思想や取り組みを新しい目で見直し、障害者やその家族が安心して生活できる福祉社会の実現に寄与することを目的として、障害福祉などの分野で顕著な活躍をされている個人・団体に「糸賀一雄記念賞」を、障害者または障害者と同様に社会的障壁による「生きづらさ」がある人に関する取り組みが先進的であり、今後の活躍が期待される個人・団体に「糸賀一雄記念未来賞」を授与しています。

以下のとおり、令和5年度の受賞者が決定し、授賞式を開催します。

## 1. 受賞者の決定について（詳細は別紙のとおり）

### ○第25回糸賀一雄記念賞

・ 山上徹二郎氏

（東京都中野区：株式会社シグロ 代表取締役）

### ○第9回糸賀一雄記念未来賞

・ じゅんちゃん一座

（青森県十和田市：座長 竹内 淳子）

・ 特定非営利活動法人東京レインボープライド

（東京都新宿区：共同代表理事 杉山文野、山田なつみ）

## 2. 授賞式の開催について

・ 開催日時：令和5年11月18日（土）午後2時から午後4時半まで

・ 開催場所：ホテルニューオウミ あづちの間

（近江八幡市鷹飼町 1481）

・ プログラム：13:30～14:00 受付

14:00～15:00 表彰式

15:00～16:30 受賞者記念スピーチ

※授賞式の模様を、ライブ配信する予定です。

詳細は、財団ホームページ(<http://www.itogazaidan.jp/>)にて、後日お知らせします。

## 第 25 回 糸 賀 一 雄 記 念 賞 受 賞 者 ・ 団 体 紹 介

山上 徹二郎 氏(東京都中野区)



### ■経歴

1954年 熊本県生まれ

1986年 映画製作・配給会社(株)シグロを設立、代表となる。

以後、信楽青年寮を舞台とする「しがらきから吹いてくる風」(1990・監督：西山正啓)、障害者の作品を芸術として捉えた「まひるのほし」(1998・監督：佐藤真)、盲ろう者をテーマにした「もうろうをいきる」(2017・監督：西原孝至)、東日本大震災から12年目のいまをテーマにした『さよならほやマン』(2023・庄司輝秋)など、既存のジャーナリズムが伝えない事象やテーマにこだわり、映画プロデューサーとしてこれまで80本を超える映画製作・配給を手掛ける。

2008年 バリアフリー映画研究会を設立。

### ■活動内容

- ・障害者の生活や芸術活動をテーマとするドキュメンタリー映画や劇映画など高い評価をうける作品を数多く製作されている。
- ・2008年のバリアフリー映画研究プロジェクト発足後、バリアフリー映画の上映会を各地で開催し、2011年から5年にわたり東京国際映画祭にてバリアフリー映画の上映を実施し、映画業界のバリアフリー映画に対する理解・認識を促進するなど、先駆的にバリアフリー映画の世界を切り拓いた。こうした映画や演劇のバリアフリー化に関する研究・実践の取り組みにより、音声ガイドを必要とする方へのサービス提供について、2016年8月よりUDCastを使った一般映画館での音声ガイドの提供が実施されるなど、障害者の芸術文化へのアクセシビリティの向上に多大な貢献をしている。

障害者の生活や芸術活動をテーマとする映画を多数製作されており、また、映画や演劇のバリアフリー化にも取り組まれ、障害者の芸術文化へのアクセシビリティ向上にも貢献されている。こうした傑出した取り組みが評価され、また、今後一層の活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念賞の受賞となりました。

## 第9回糸賀一雄記念未来賞受賞者・団体紹介

### じゅんちゃん一座（青森県十和田市）



#### ■活動歴

2005年から地域住民を対象に「もの忘れフォーラム」が医師会主催で実施されてきた経過の中で、市民から「寸劇を見て認知症を勉強したい」という声を受け、十和田市立中央病院の精神科医師が、寸劇を用いて認知症の普及啓発を行うボランティア団体（劇団）を地域の市民、保健師、介護支援専門員らに声をかけ2011年に結成された。公演を通じて、「認知症の人たちと共生できる地域」の理念を伝え、地域づくり・人づくりを行っている。

#### ■活動内容

- ・公演は、子どもから高齢者まで、全世代が楽しみながら認知症を学ぶことができるように、精神科医による「専門的な講義」に加えて、方言を交えたユーモアあふれる寸劇を組合せ、「エデュテイメント（楽しみながら学ぶ）」の手法を用いて、笑いながら、自然に知識を身に着け、行動実践できるように工夫している。
- ・認知症の人が住み慣れた地域で安全・安心して暮らしを続けるためには、医療介護関係者だけでなく、子どもから高齢者まで地域の全世代の住民が認知症の症状や対応方法を理解し、実践できること、いわゆる「地域まるごと、ごちゃまぜ」での取り組みが必要であるとの考えで、人づくり、地域づくりを行っている。
- ・公演回数は、2023年6月末現在で215回。市民向け、医療・介護従事者向け、職場のメンタルヘルス研修、小中高大学の出前事業や、東日本大震災被災地支援の県外出前公演の実施など、多地域・広域での活動に広がってきた。東海大学では、地域コミュニティ論(1年次必修科目)の授業で一座の活動が地域コミュニティ活動の一例として取り上げられ、公演を収録したビデオが教材として活用されている。
- ・コロナ禍で従来と同様のやり方では活動が困難となり、ラジオ番組への出演、zoomによる講演、スマホアプリを用いたオリジナルラジオ番組の立ち上げ・放送、寸劇DVDの作成・配布などを行っている。また、高齢者・障がい者等の緊急時の医療アクセス改善に向け、「救急医療情報キット」と認知症を組み合わせた寸劇に取り組み、キットの普及啓発活動を行っている。

認知症理解への普及啓発として、方言による寸劇、またコロナ禍を受けた多様な手法開発など、発信力があり、また、親しみやすさを武器に、誰もが安心・安全に住み続けられるためのまちづくりを行う観点での取り組みは先駆的で、今後ますますの活躍が望まれるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。

## 第9回糸賀一雄記念未来賞受賞者・団体紹介

### 特定非営利活動法人東京レインボープライド(東京都新宿区)



#### ■活動歴

2011年 任意団体「東京レインボープライド」を設立。

LGBTQ(性的少数者)が差別や偏見にさらされず、前向きに生活できる社会の実現を目指した団体。

2012年～ 毎年4月または5月に、東京都代々木公園でフェスティバル、渋谷周辺でパレードを開催している。

(日本初のプライドパレードは、別団体により1994年に実施された。)

2015年 NPO 法人格を取得。

#### ■活動内容

- ・「らしく、たのしく、ほこらしく」をモットーに、性的指向および性自認にかかわらず、すべての人が、より自分らしく誇りをもって前向きに生きていくことのできるHappy!な社会の実現を目指し、多様な性の存在を可視化するイベント(呼称:東京レインボープライド2023等)を実施している。
- ・ホームページやメディアでの様々な情報発信、LGBTQに関するトピックを取り上げた定期イベント(TRPスクール)、企業への理解促進の活動などを続けている。

多様な性の存在を可視化するイベントを毎年開催し、LGBTQの理解促進への発信力および先進性が傑出しており、共生社会の実現に向け、さまざまな波及効果も期待でき、これまでの経験や知見をベースに、今後ますますの活躍が望まれるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。